



英語による課題研究発表に向けて佐賀大学の留学生から指導を受けました

理数科3年生は、2年時に取り組んだ課題研究についてSSH研究Ⅲの時間に英語で発表を行います。生徒は、2年時に課題研究の内容を英語に直す際、「課題研究ガイドブック」（致遠館高校発行）の中にある「Advice for students」を参考にして、英語に翻訳する際の悪い表現とその代わりになる良い表現の例を踏まえて翻訳を行いました。これは、本校の先輩方が研究内容の日本語を英語に翻訳する際に、佐賀大学の先生や大学院への留学生の方々に指摘を受けた事例を蓄積したものであり、多くの生徒が参考にしていました。

発表を行うにあたって今年度も、佐賀大学理工学部と農学部の先生や大学院への留学生の方々に事前指導を受けました。自分たちの研究した内容を英語に翻訳し、大学の先生や留学生にオールイングリッシュで説明しました。発表時の英語での表現の仕方や発音、アクセントなどについて様々なアドバイスを受けました（上写真）。留学生の方々も生徒の熱意に responding、時間いっぱいまで身振り手振りを交えて指導されていました。留学生からは、「間違いを恐れず積極的に伝えようとする事」など発表時の心構えについて助言をもらっていました。



英語による課題研究発表会を開催しました

5月20日（木）に理数科3年生が英語による課題研究発表を行いました。コロナ禍で、密を避けるため、物理・化学・生物・数学の4分野の発表会を高校体育館・中学校体育館・視聴覚教室・大会議室と4会場に分けて行いました。理数科普通科の1・2年生が参観しました。企業の研究者や大学の先生、留学生の方々にも参加頂き、質問や助言を頂きました（写真右）。

英語での研究発表も初めてということに加えて、発表会には新聞社やテレビ局の取材も入ったため、生徒には緊張や固さも見られましたが、この経験は必ず大学での学びにつながると思います。



<聴講した生徒の感想>

- 専門的な単語が多く難しかったが、簡潔な文章で表現されていたので何とか内容をイメージすることができた。
- 内容は難しかったが、発表資料の作り方や発表の仕方の工夫が分かったので、今後の活動に活かしていきたい。

<発表した生徒の感想>

- 発表は難しかったが、何とかやりきることができた。どうやったら上手く伝えられるか、反省する点もあったが、この経験は大学やその先でも役に立つと思います。